

次世代郊外 まちづくり通信

次世代郊外まちづくり通信は、「次世代郊外まちづくり」のさまざまな活動をお知らせし、地域の皆さまをはじめとして多くの方々に知ってもらうためのニュースです。

vol.22

次世代郊外まちづくり **2017年10月に実施** アンケート調査結果 (ダイジェスト版) をご報告します

横浜市と東京急行電鉄株式会社が2012年度から推進してきた『次世代郊外まちづくり』の推進に関する協定を2017年4月1日に更新したことを受け、この5年間での街や暮らし、コミュニティの変化状況を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

ダイジェスト版として、アンケート結果の一部を、5年前の結果との比較でご紹介いたします。このアンケート調査の詳細結果は、WEBサイトでご報告しています。

<http://jisedaikogai.jp/>

【調査概要】

調査対象	美しが丘1・2・3丁目に居住する全世帯 ◆世帯数は6,310世帯(2016年3月31日現在)
調査方法	自記式 / 訪問留置郵送回収、一部訪問回収
調査期間	2017年10月14日～10月18日
回収状況	依頼・ポスティングに対して20.7% (依頼・ポスティング: 6,063世帯 回収: 1,255世帯)

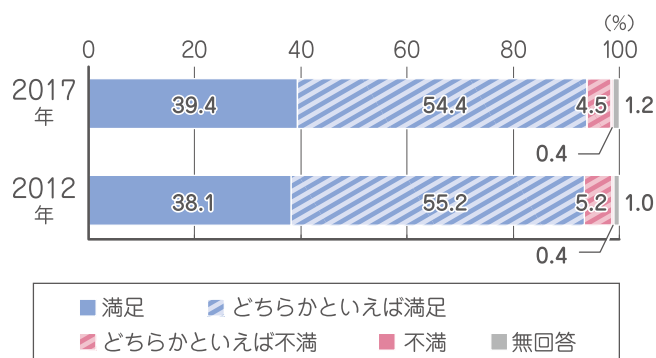
1. たまプラーザに対する満足状況と定住意向

● たまプラーザに対する全体満足度

たまプラーザの街に対する全体的な満足度は、前回同様に「満足」が約4割、「どちらかといえば満足」を含めると9割以上に上りました。「不満」の回答は非常に少なく、たまプラーザの街に対する住民満足度の高さが伺えます。

なかでも、「街の風格」「自然」「買い物施設」

「日常の買い物、買い回りの便利さ」「交通の利便性」については、満足している人の割合が特に高く、「満足」「どちらかといえば満足」を含めると8割以上でした。また、前回調査と比べると、「雰囲気(マナー・コミュニティ)」「安全(防犯対策・防災対策)」「教育関連施設」の満足度は高まっている一方で、「交通の利便性」は低下しました。



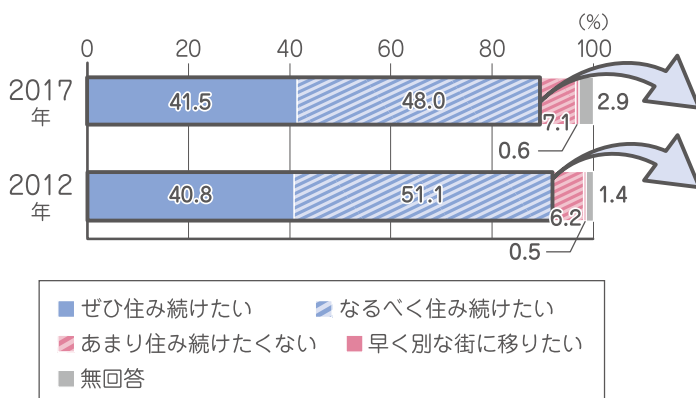
ベース人数: 2017年1255人、2012年1358人

● 定住意向

前回調査と同様、街の全体的な満足度の高さにも対応して、街への定住意向は非常に高いです。ただし定住意向がある人でも、必ずしも現在の住まいにこだわっていない人が3割程度みられました。

一方、住み続けたくない理由については、前回以上に「電車の混雑」の割合が高くなっており、ついで住まいにかかる費用が高いことが上がっています。

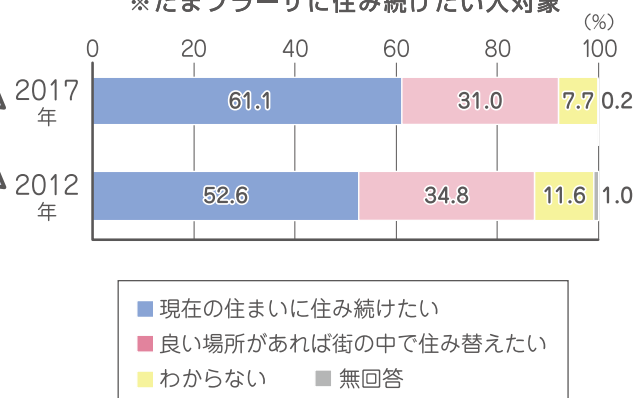
< たまプラーザでの定住意向 >



ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

< 現在の住まいの今後の居住意向 >

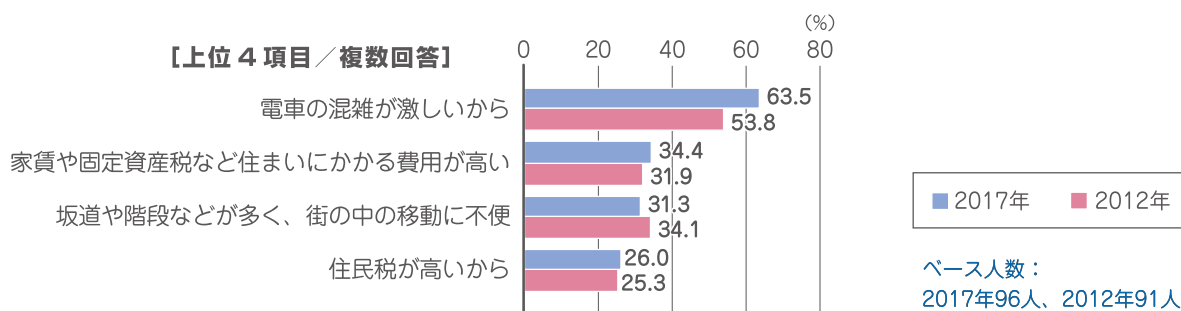
※たまプラーザに住み続けたい人対象



ベース人数：2017年1123人、2012年1248人

< 住み続けたくない理由 >

【上位4項目／複数回答】



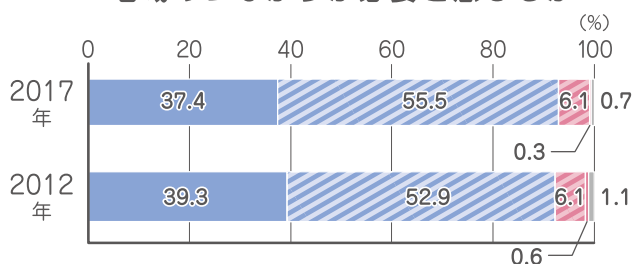
ベース人数：
2017年96人、2012年91人

2. 地域とのつながり・交流・街づくりに関する実態とニーズ

● 地域とのつながりニーズと現状

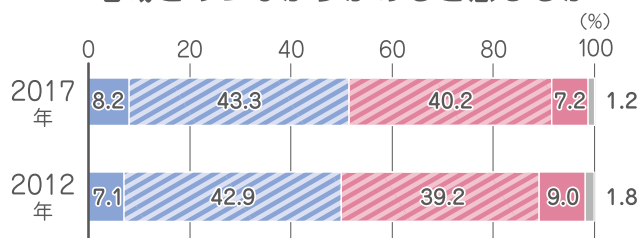
「地域とのつながりを必要」と感じる人は「どちらかといえば」を含めると9割以上でした。「地域とのつながりがある」と感じる人は半数を超え、前回に比べて増加しています。

< 地域とのつながりが必要と感じるか >



ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

< 地域とのつながりがあると感じるか >



ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

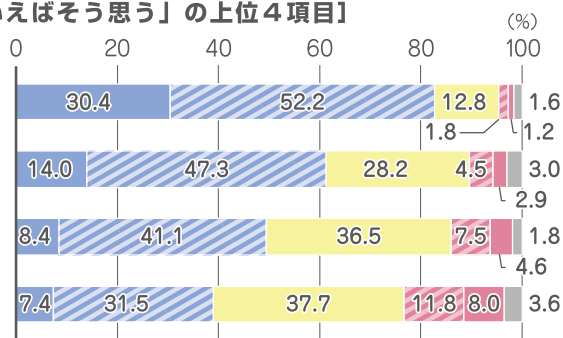
■ とても感じる ■ どちらかといえば、感じる ■ どちらかといえば、感じない ■ まったく感じない ■ 無回答

● 地域とのつながりに対する考え

「地域の居心地」のよさを感じている人、また「手助けを必要とする人がいたら助けたい」という意識を持つ人が多いです。

【「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の上位4項目】

この地域は、私にとって居心地がよい
身近にちょっとした手助けを必要とする人がいたら助けたい
この地域に住む人々はお互に良い関係を保っていると思う
この地域をもっと暮らしやすくしていくために、何かに取り組んだり活動を行いたい



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない
■ どちらかといえばそう思わない ■ そうは思わない ■ 無回答

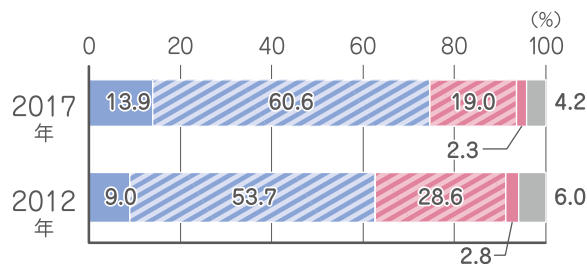
ベース人数：
1255人

● 地域での交流機会ニーズ

地域で交流する機会があればよいと思う人は、「どちらかといえば」を含めると7割以上で、前回よりも1割以上増加しました。

あればよいと思う交流や活動の機会については、おおむね前回と同様の傾向で、自分の関心や趣味に関するニーズが高いです。

< 地域とのつながりに対する考え >

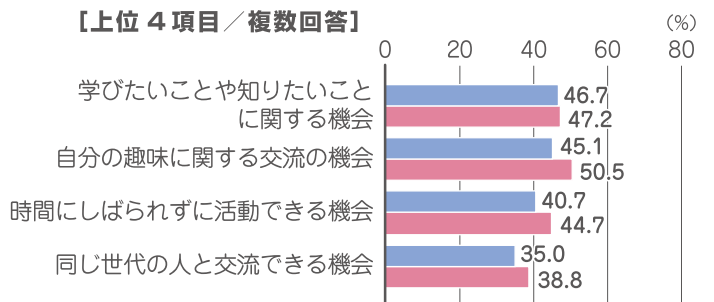


■ とてもそう思う
■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない
■ まったくそう思わない ■ 無回答

ベース人数：
2017年1255人、
2012年1358人

< あれば良いと思う交流や活動 >

【上位4項目／複数回答】

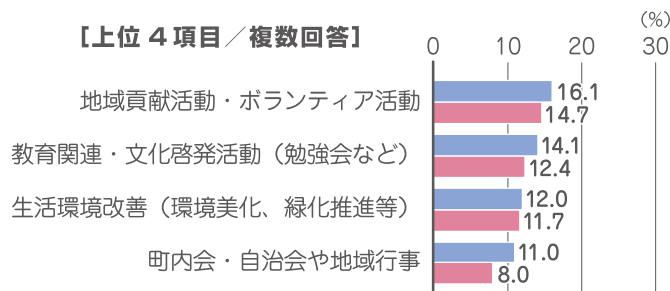


■ 2017年 ■ 2012年
ベース人数：
2017年935人、2012年851人

● 今後参加したい活動

「地域貢献活動・ボランティア活動」が最も多いほか、勉強会など「教育関連・文化啓発活動」、環境美化や緑化推進など「生活環境改善」に関する活動への参加意向が見られました。

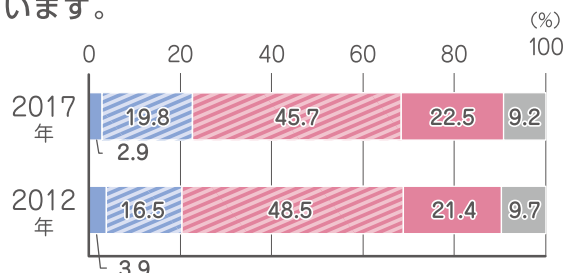
【上位4項目／複数回答】



■ 2017年 ■ 2012年
ベース人数：
2017年935人、2012年851人

● 街づくりの担い手となる意向

「ぜひやってみたい」人、「どちらかといえばやってみたい」を含め、2割以上の人に意向があり、前回よりも割合がやや増加しています。



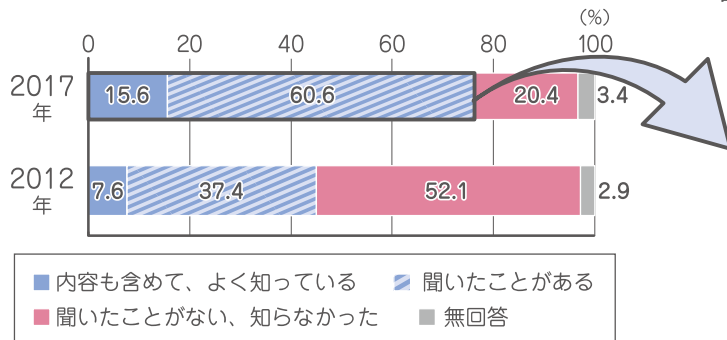
■ ぜひ、やってみたい
■ どちらかといえば、やってみたい
■ どちらかといえば、やりたくない
■ やりたくない ■ 無回答

ベース人数：
2017年1255人、
2012年1358人

● 次世代郊外まちづくりの認知・参加経験

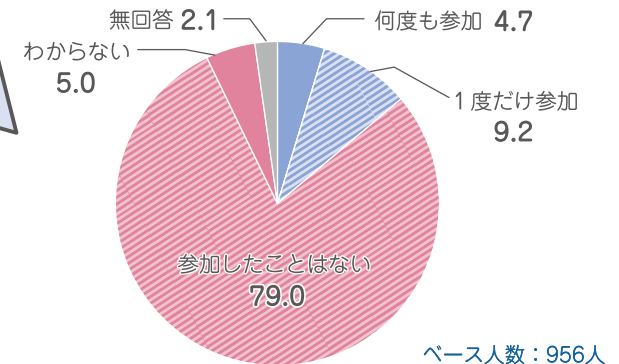
「次世代郊外まちづくり」の取り組みについて「内容も含めてよく知っている」、「聞いたことがある」人も含め認知率は76%にのぼり、前回に比べて大きく増加しました。ただ、認知していただいている方の中でイベント等の取組に参加経験がある人は14%でした。

< 「次世代郊外まちづくり」の取組認知 >



< 「次世代郊外まちづくり」取組への参加経験 >

※認知者対象

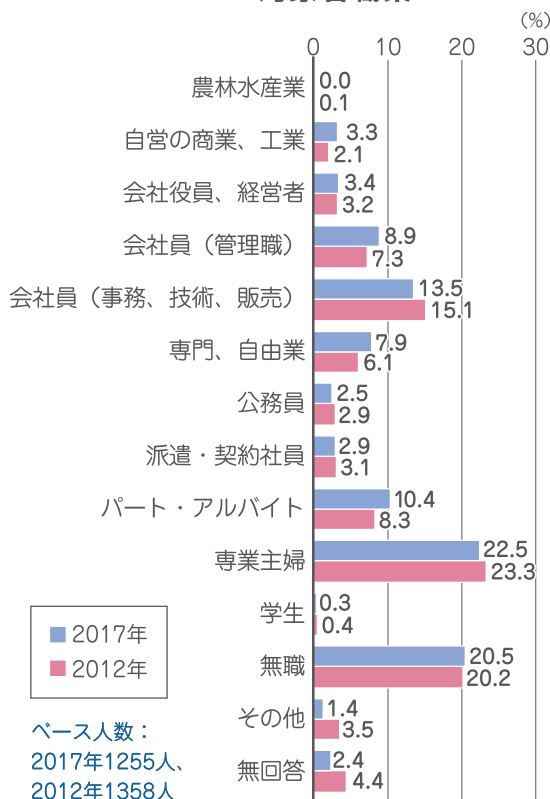


3. 働き方の実態とニーズ

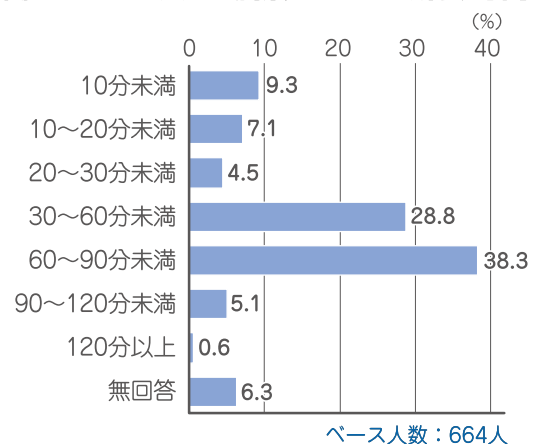
● 就業状況

回答者の職業としては、会社員・専業主婦・無職がそれぞれ約2割。働いている人の勤務先までの所要時間は60～90分未満が最も多く、平均すると47分です。また「いつも決められた時間に出社している」人が74%いる一方、「フレックスタイム」や「在宅」「シェアオフィス」等、多様な働き方をしている人も2割程度いることが分かりました。

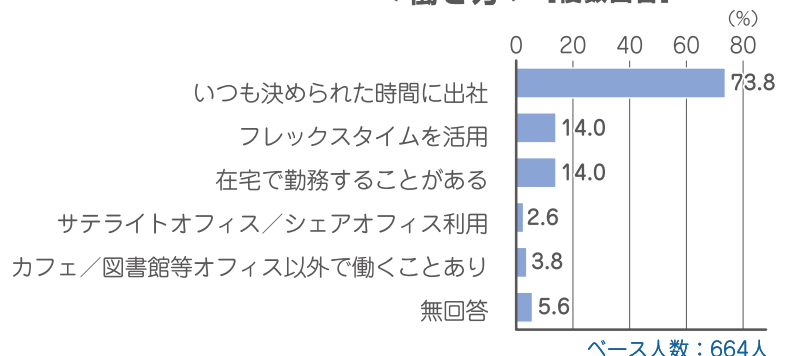
< 対象者職業 >



< 働いている人の勤務先までの所要時間 >

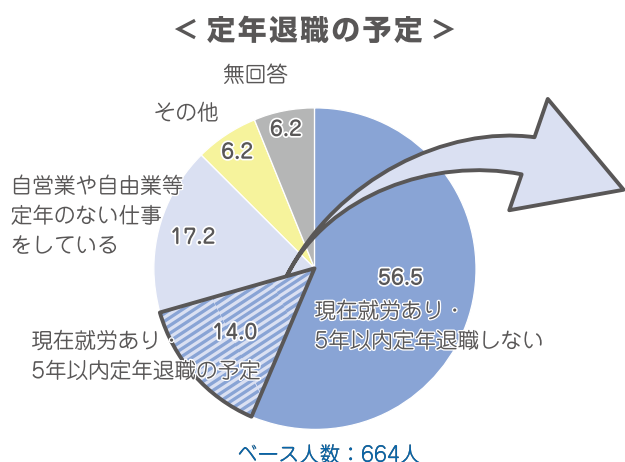


< 働き方 > [複数回答]



● 定年退職の予定・定年退職後の過ごし方

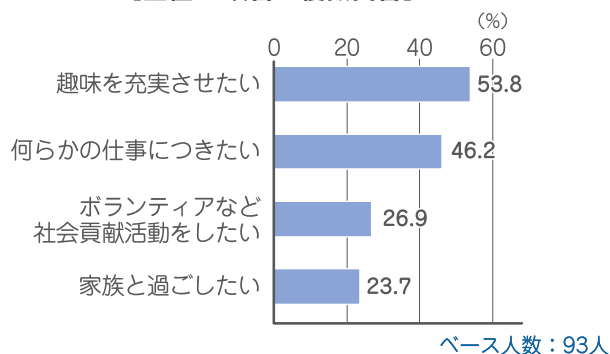
現在働いている人で、この5年以内に定年退職の予定の人は14%。定年退職後の過ごし方の希望は「趣味を充実させたい」「何らかの仕事につきたい」が4割以上で、「ボランティアなど社会貢献活動をしたい」人も3割近くいることが分かりました。



< 定年退職後の過ごし方 >

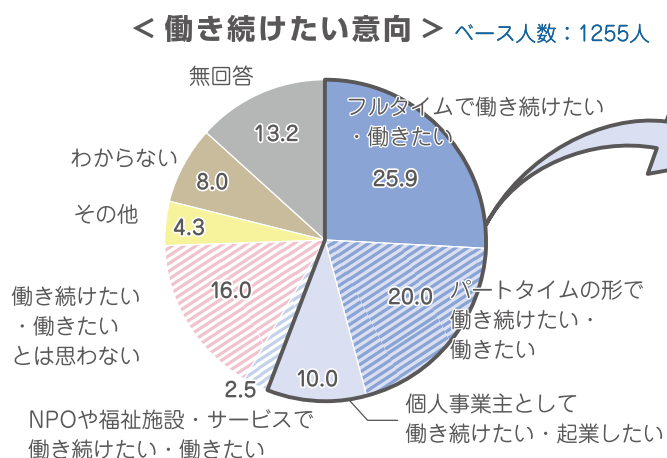
※ 定年退職予定の人対象

【上位4項目／複数回答】



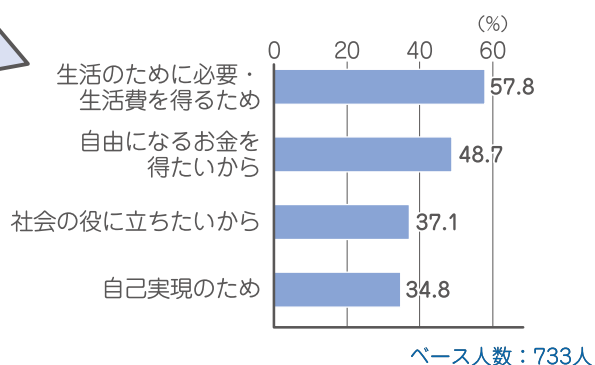
● 働き続けたい意向

働き続けたい理由は、「生活のために必要・生活費を得るため」「自由になるお金を得たい」等、生活資金の面での理由が多くあがっていましたが、「社会の役に立ちたい」「自己実現のため」といった回答も3割以上ありました。



< 働き続けたい理由 >

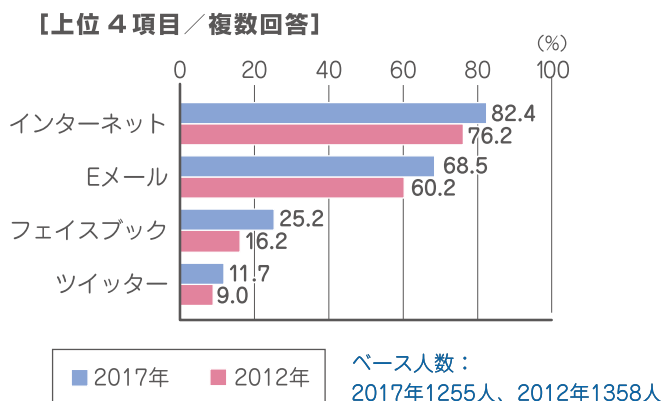
【上位4項目／複数回答】 ※ 働き続けたいひと対象



4. 情報・移動・環境に関する実態とニーズ

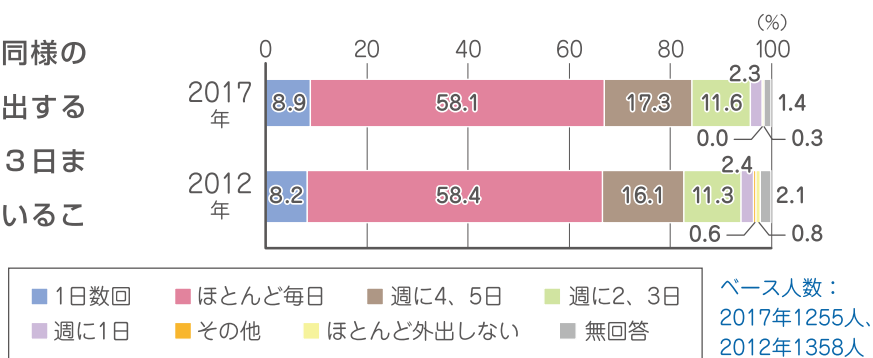
● 利用しているコミュニケーションツール

インターネットが82%と最も多く、ついでEメールが69%。フェイスブックも25%の人が使用していることが分かりました。いずれのツールも前回より増加しています。



● 外出頻度

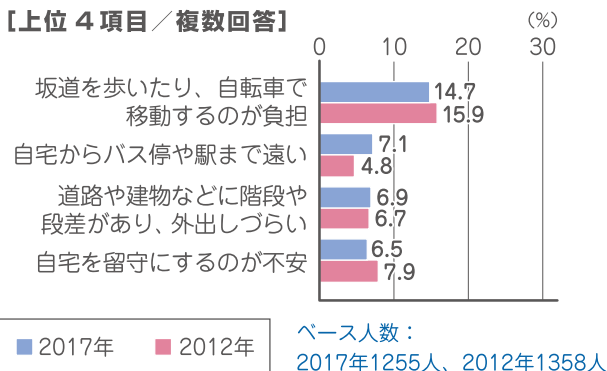
外出の頻度は、前回とほぼ同様の結果となり、ほとんど毎日外出する人が7割近い一方で、週に2、3日またはそれ以下の人も2割近くいることが分かりました。



● 外出時の不安・不便さ

「坂道を歩いたり、自転車での移動が負担」が15%で、前回と同じく最多でした。それ以外の項目についても1割未満であるものの、外出・移動に対する不安・不便さを感じている人が少なくないことが分かりました。

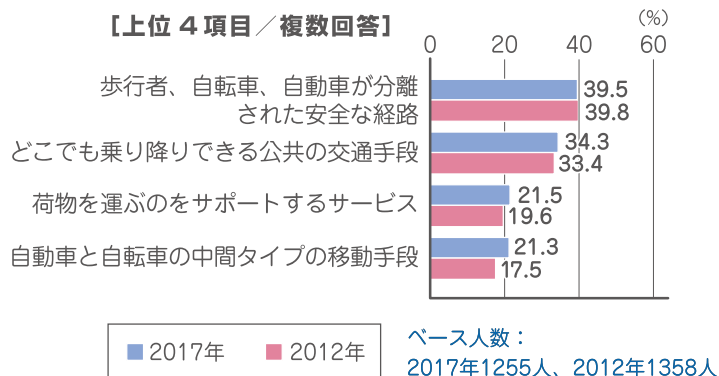
【上位4項目／複数回答】



● 移動（モビリティ）に対するニーズ

前回同様「歩行者・自動車分離の安全な経路」「どこでも乗り降りできる公共交通手段」に対するニーズが高いことが分かりました。

【上位4項目／複数回答】

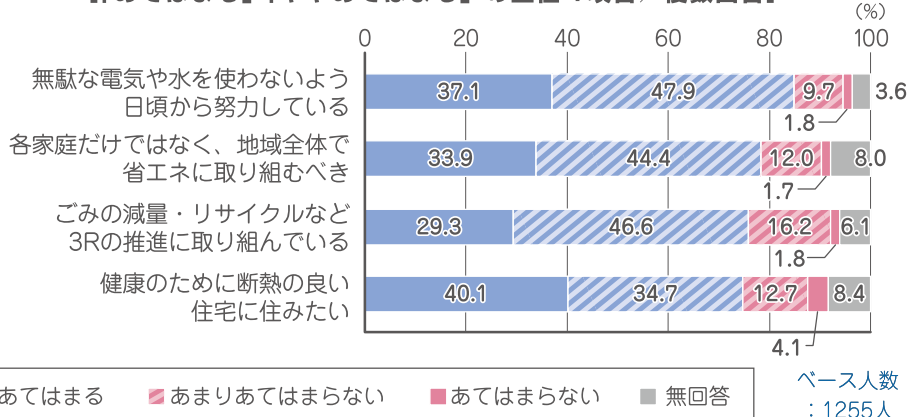


● 環境・エネルギーに対する意識

「無駄な電気や水を使わない努力をしている」「ごみの減量・リサイクルなどに取り組んでいる」など自分自身の努力や心がけを行なっている人が目立つほか、約8割の人が「地域全体で省エネに取り組むべき」と答えました。一方、「廃油のリサイクル」や「自家用車に頼らない生活」に取り組んでいる人は少なかったです。

また、前回と比べて、環境・エネルギーに対する意識もやや低下していることも分かりました。

【「あてはまる」「ややあてはまる」の上位4項目／複数回答】

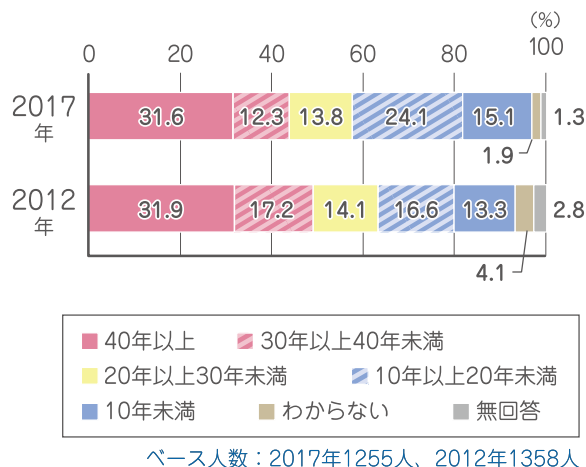


5. 住まいに関する実態とニーズ

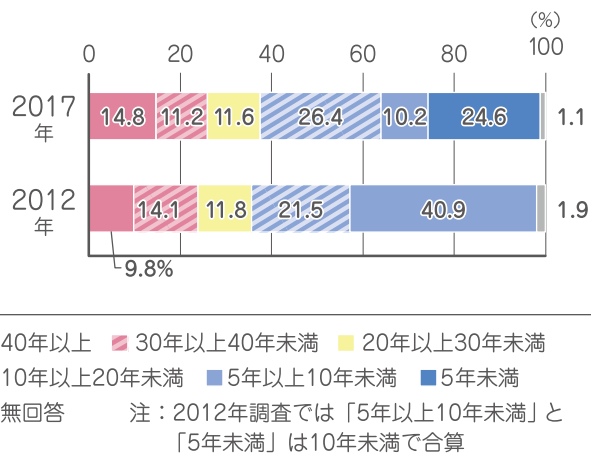
● 築年数・居住年数

住居の築年数は40年以上が32%で最も多く、30年以上たっている建物に住んでいる回答者は4割以上います。居住年数では10年未満の人が35%を占めています。

< 住居の築年数 >



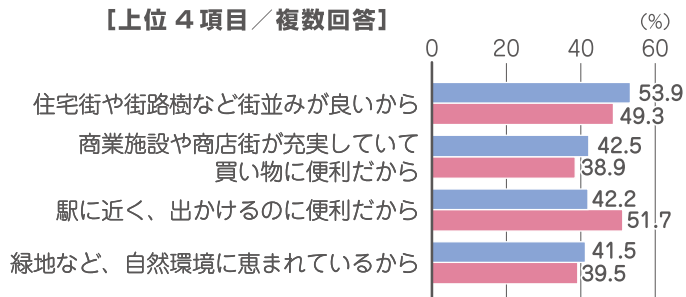
< 居住年数 >



● 住まいの選択理由

前回とやや傾向が異なり、「街並みが良い」が最も多く半数以上、ついで「商業施設の充実」「駅に近く出かけるのに便利」「自然環境」「地域の治安」が4割前後で続いています。

【上位4項目／複数回答】

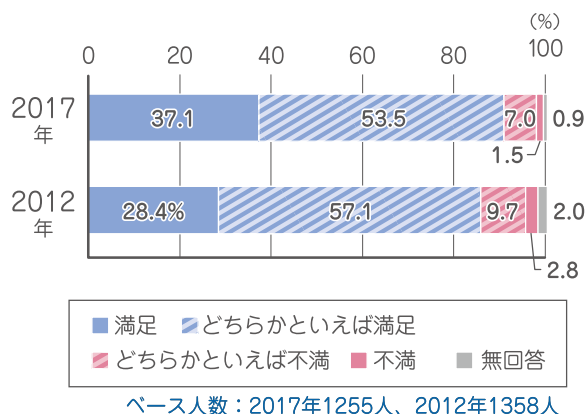


■ 2017年 ■ 2012年

ベース人数：
2017年1255人、2012年1358人

● 住まいに対する満足度

「満足」の割合が37%、「どちらかといえば満足」が54%で、合わせ91%の人は満足していて、前回調査よりも大きくアップしていることが分かりました。

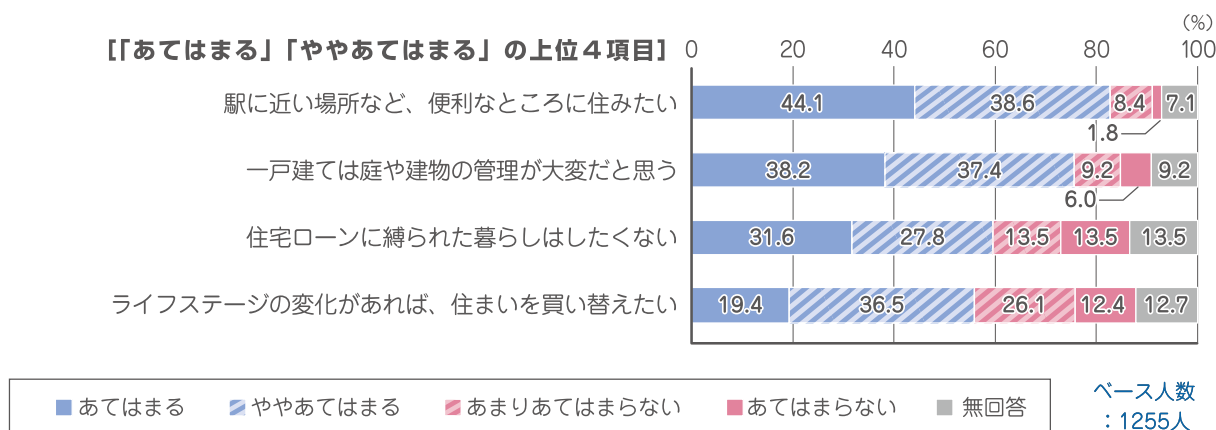


● 住まいに対する意識

「駅に近い場所など便利な場所に住みたい」にあてはまる人が8割超、「一戸建ては庭や建物の管理が大変と思う」人が7割以上にのびりました。

一方で「郊外よりも都心や都心の近くに住みたい」「多少不便でも環境のいいところに住みたい」「多少無理をしても自分の家を持ちたい」は、意見が分かれました。

また、ライフステージの変化では、リフォームするよりも買い替えの方がニーズが高いことも分かりました。

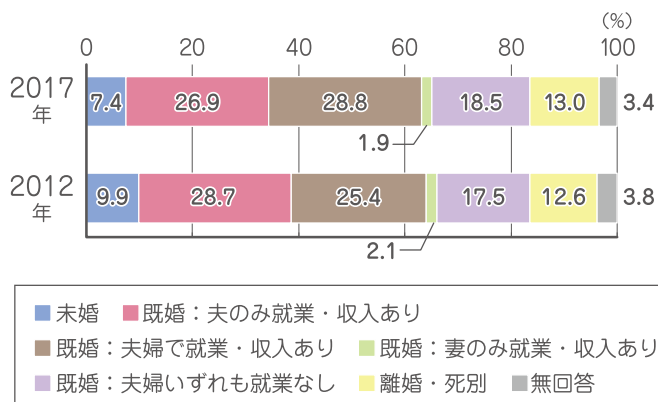


6. 家族・世帯の状況

● 未既婚・夫婦の就業状況

既婚が全体の7割を占め前回よりやや高くなっています。

既婚のうち、夫のみ就業がやや下がった一方、夫婦で就業が約3割となっており、共働きの割合が前回よりやや増加しました。



アンケート調査の詳細結果はホームページで

今回のまちづくり通信で紹介したアンケート調査の結果は一部を抜粋したダイジェスト版です。詳細な結果を知りたい方は、「次世代郊外まちづくり」のWEBサイトをご覧ください。

